令和４年度小平市立小平第九小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

１　調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

２　調査内容

（１）教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

３　各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

知識及び技能に関する事項の正答率は、全国平均、東京都平均を上回っている。特に我が国の言語文化に関する事項に関しては、全国平均より３ポイント、東京都平均より５ポイント高かった。書くことに関する正答率が低かった。

課題

書くことの問題では、正答率が全国平均、東京都平均を下回り、無回答率も２０％であった。

分析により文章に対する感想や意見の伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題があると考えられる。

学校で取り組む具体的な改善策

・推敲する時間を設け、「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」などという観点を明確にさせる。
・書いた文章を友達と交流する時間を設けることで、読み手にとって分かりやすい文章にしたり、自分が伝えたいことを明確にしたりすることを意識させる。また、自分が書いた目的や意図を相手に伝えたり感想や意見を具体的に伝え合ったりして良さを認め合う。

【算数】

状況の分析

「数と計算」の正答率は全国平均、東京都平均を上回っている。「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の正答率は、全国平均を上回っているが、東京都平均は下回っている。

課題

基礎的な知識はおおむね身に付いていると言えるが、今後は、活用を主とする問題にも力を入れる必要がある。活用問題を効果的に行い、思考力を高めるようにする。

学校で取り組む具体的な改善策

・習熟度に合わせた問題解決学習を進め、活用問題も効果的に行うようにする。
・「図形」の領域では、一人一台端末を効果的に活用し、作図、面積や体積の求め方を筋道を立てて考え、説明することができるようにする。

【理科】

状況の分析	課題
「エネルギー」「粒子」「生命」を柱とする領域の正答率は全国平均、東京都平均を上回っている。「地球」を柱とする領域の正答率は、全国平均、東京都平均を下回っている。	「生命」、「粒子」を柱とする領域の記述式の問題の正答率が特に低い。また、記述式の問題の無回答率は、全国平均、東京都平均より３ポイント高い。観察、実験などで得た結果から自分の考えをもち、その内容を記述することを苦手としている児童が多い。

学校で取り組む具体的な改善策

・一般化した規則性を導き出すために、実験を複数の方法で複数回行う。１つの事物で見られた現象だけではなく、複数の事物で見られた現象で検討する。
・友達の考えを基に自分の考えを振り返ったり、見直したりする時間を設ける。

【質問紙】

状況の分析	課題
「自尊感情」が高く、「学習習慣」も身に付いているという結果になった。何事にも前向きに考え取り組む児童が多い。規範意識は、ほぼ全国平均と同じであり、さらに伸ばしていきたい。	友達の話や意見を最後まで聞くことはできるが、友達の考えを受け止めて、自分の考えをもつことを苦手とする児童が多い。普段の生活の中で一方的に意見を言ったり、聞いたりするのではなく、相手と交互に意見交換し、自分の考えを深め、相手の考えを理解できるようにする。

学校で取り組む具体的な改善策

・学級会等の話し合い活動の中で、互いの意見を出し合い、課題の解決を自ら行う力をつける。自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い意見をまとめる経験を積み重ねていく。
・学習や行事を通して、共同的に解決し、達成感と成長を児童が実感できる取組を今後も継続的に行う。
・人の役に立つ人間になりたいと思う児童が多いことから、そのことを実感できる場を設定し、さらに自己肯定感を高める。